

Dr.ひろみの

# ハッピー子育て

# か る た

ひろみ

パッション  
情熱・熱い思い



☆読み手☆

鈴木 裕美 (すずき ひろみ)  
香川大学医学部 小児科専門医

みなさん、こんにちは。受験シーズンですね。私は学生と面接するとき成績は二の次です。その学生にパッションがあるか見たいです。なぜそこで何を学びたいのか。ほしい未来は描けているか。パッションのある人は障害や病気、つまずいた経験があっても乗り越えられますが、能力があってもパッションのない人は何もなしえることができません。パッションは何よりも大事な生きる能力かもしれません。

20

お  
やのくせも  
生き方も  
子どもの手本になっている



19

親の言へんと聞かないけれど  
ものまねからは  
じぶんのまねは



## 今月のかるた解説



人は視覚から最も情報を得ることができるので、見て学ぶことが多いです。特に子どもは言語を理解して行動に結びつけるのは難しく、大好きなおうちの人がやっていることをよく見て、どう行動すべきか学ぶ方が簡単です。子どもにあれしろ、これしろと口うるさく言っても効果ないですが、扇風機のスイッチを押したり、冷蔵庫のドアを閉めたりするのに足を使っているのはよく見ていて、得意げにやってみせたりします。「そこはまねるんかい！」って思わずツッコミたくなりますね(笑)。

差別的な発言や車の中の悪態など、無意識にやっている悪い癖を真似ているとき、思わず反省してしまいます。いいことも悪いことも子どもの手本になっています。お金の使い方、仕事に対する考え方、友達や親戚との付き合い方など、何を、誰を大事にして生きるのか、人生に何を求めるのか。親の生き方もまた、子どもの生き方の手本になります。自分の生き方や考え方を真似しろと言うのも、自分ようになるなと言うのも子どもの気持ちを尊重していない気がします。真似するかどうかの選択権は子どもに残し、最善の生き方をそれぞれ模索していけるといいですね。